



第十六卷  
第三號

## 第十六卷第三號目次

亞米利加幼兒教育視察談

京阪神幼稚園の視察

岸邊福雄

土川五郎

無口な子を教育した實驗

○慈眼てまそひ

○自重心に訴へて

幼稚園可否の論を讀みて

宇式かん

折井彌留枝

十川五郎

印 刷 者

東京府豊多摩郡代々幡村大字代々木山谷二二四  
編輯兼發行者 倉 橋 惣

東京市本所區椿楊町四番地

登 井

フレーベル追憶錄

發 行 所 フ レ 一 ベ ル 會

### 本誌定價

一冊郵稅共金拾壹錢

二冊同金壹圓貳拾錢

六冊前金郵稅共六拾錢  
郵券代用一割

### 購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替賄金にて御拂い  
込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六  
醫)

### 本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願びます

庶務及會計に関する御用務は東京女子高等師範學  
校附屬幼稚園内フレーベル會事務所宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々  
木山谷二二四倉橋惣三宛

大正五年三月五日印刷納本  
大正五年三月五日發行

# 玉成保姆養成所生徒募集

本養成所は幼稚園保姆養成を以て目的とし、左の通り生徒を募集す。

一、始業四月十日より（授業は毎日午後二時に始め五時に終る）

一、修業年限一年

一、入學資格

イ、高等女學校又は同程度以上の學校を卒業したるもの。

ロ、尋常小學校准教員又は同程度以上の資格を有するもの。

一、授業料一ヶ月金貳圓、入學金壹圓

一、生徒定員當分拾五名（遠からず増員の計畫）

○尙詳細については玉成保姆養成所長ソファヤ・アラベラ・アルウイン宛照合せられだし。

大正五年三月

東京市麹町區土手三番町十六番地

玉成保姆養成所

羽仁もと子主幹

# 子供之友

本誌は十分教育的に編輯された子供雑誌で御座いま  
す。記事も挿画も子供の喜ぶものばかりです。樂んで  
で読む間に、頭脳をよくし感情を高尚にし、善良な  
る習慣を愛するやうになります。『子供之友』には、一  
つの非教育的な挿画も、一行の不注意なる文章も  
ありません。『子供之友』は、家庭教育の最も有力なる  
補助機関であります。幼稚園及び小學校時代の御子  
様方のために、熱心によき讀物を求めて居らるる御  
家庭におすゝめ致します。

一定年冊價六錢半分稅金と司社友之人婦

谷ヶ番○○六一替振東京

# 婦人と子ども

大正五年三月一日  
第十六卷第三號

## 亞米利加幼兒教育視察談

東洋幼稚園長 岸邊福雄

—(フレーベル會二月常集會に於ける講演) —

私が米國に参りましたのは、甚だ突飛で何の用意もなく参りました。さつと云ひますと、笊を持って水を汲みに行つた様なもので、水は澤山ありました。汲むことも澤山汲みましたが、皆漏つてしまひまして、わづかに笊をぬらしたばかりです。

それも、もう日が立ちましたのでだいぶ乾きました。もし少しの温つた分だけ今日のお役に立てばよいと思ひます。

らず、誠にお恥かしいことでした。従つて系統的にお話しすることが出来ませんが、たゞ観て廻りました道の順でお話しさまして最後に、サン・フランシスコで、モンテッソリー先生にお目にかかるお話を伺つたことをお話をいたします。

### ○容易く出来る亞米利加視察

私は十月にあちらへ参りました。それについて

觀ましたのは、幼稚園、小學校、女學校、日曜學校、子供の繪本、玩具、運動場、芝居、活動寫眞、托兒所、孤兒院等でしたが、何れも十分にわか

らないこと、第一、英語がそんないらぬこと。

第三、風土が日本と同じで、御馳走がいたゝけてすべてがごく簡単で、太平洋沿岸を観察いたしましたには、一日、日本の金の五圓で旅行が出来ます。船賃が往復一回で二百五十圓、(留學生ならば二割半引かれるから、それと同じ割合として)三十日旅行すると百五十圓、それに汽車賃が百圓、合せて五百圓で行つてこられます。内地の旅行や満韓の旅行もよいが、全然風變りの地方をみた方更に有利でありますから出来ることなら一度行かれることをおすゝめします。歸つてきましてから、皆さんにきかれますと、何もみないといひますが、本當はくすぐつた様に思はれます、實際は觀ないといつても實はいろんなものをみたのであります。東京府で本年は視察の爲に三千圓の豫算が立て、あるさうですが、それを小學校の校長に三百圓づつ十人にあげて、不足は其推薦に當つた人が足すとしましたら一人や二人で見るよりも、十人で二十の眼でみた方がよいと思ひます。英語を知つて

居れば長い期間には役に立つでせうが、一寸みる位の時には知らなくても大したちがひはありません。私は英語の數を十位しか知りませんでした。私の連れになつた人は、十二三しかわかりませんでした。それでも大丈夫旅行が出来ました。それは向うにある日本人に泣きつくのです。一番はじめにシャトルにつく日に「アスツクムカヒニキテクレタノム」とシャトルの領事に電報を打つて頼んで置きましたら、その方のお子さんを一寸私の幼稚園におあづかりした事があつたばかりの關係でありましたに、それでも迎ひに人を遣はして下すつて、よくきたとほめて下さいました。よくきたといふ意味は、今まで來る人といへば、大臣の大將だの頭取だの社長だと、あたま株の人のみであつて、手足ともいふべき人が來るのが少なかつたからでもあります。それから領事が私一人の案内をして下さつたり、都合の出來ない時に同僚の方を頼んで案内をさせて下さいました。

## ○幼い時から獨り立ち

船の中で面白いと思つたのは三歳位の西洋人の子供でした。お母さんと一所に甲板に出て遊んで居りましたが、どうも自由自在なものでした。とんくとそこら中驅けまはつて遊んで居ました。そしてお母さんは平氣で放任して心配さうにもしませんでした。同じく日本の婦人が同年位の子供を連れて遊ばせて居らるゝのを見て居りますと、もうくお母さんが心配でく、一足歩くとそら危い二足行くとそらころぶとよとひどく焦慮して居られるのでした。なるほど見て居るとお母さんが心配せられる通り危つかしい足もとでした。私は彼の教育の仕方といふやうな事をよほど考へさせられました。米國についてから孤兒院に参りまして三十人ほどの赤ん坊が寝かせてありますのを見ましたが、どの子供も泣きません。たまに泣きますとついて居る人がおしめを取りかへてやり

ます。さうすると直に靜になつてしまひます。そして獨り遊びをして居るのです。あの時分から獨立して居るのでです。それから同船中の西洋人の教育家のお嬢さんでしたが六歳位のが私の前に坐つて玩具の道具を出して、コップに水を入れて遊んで居ましたのが食事の鈴がなると直に玩具をかたづけました。之れだけならば何でもありませんが、やがてコップの水は一方へうつして、一方を空にしておいて出て行きました。私は傍で見て居てつくづく感心しました。一人で方づける、仕末をするといつて、之れ以上のことはありません。こゝでも實に萬事が徹底的であるといふ暗示を興へられるやうな氣が致しました。

## ○子供の姿勢、行届いた衛生設備

甲賀藤子女史のお仕込みになつた幼稚園では足さきの練習をよほどやつて居られるやうでした。

まあ歩く事の練習なのです。これは姿勢をよくするといふ事もありませうし、品よく歩くといふ事もありませう。私も船に乘つて、歩く時にどんどんと音がして如何にも不作法であると気がついた時は實に恥しい思ひが致しました。それから私は毎日階梯を上つたり下りたりする稽古を致しました。むかうでは子供が足先きで歩く事を學んで居りますから少しも音を立てずに歩く事が出来ます。姿勢も非常にゆつたりとして居ります。幼稚園でも保育室で、足を組むのも他見をするのもあります。が、雑談が嚴禁せられてありますから静肅です。幼稚園の建物はどうか、設備はどうかといふ事になりますとそんなに變つた事はありません。建物は非常に頑丈に出来て居て、柱が太く天井が高く如何にも落ちついでしつかりしたものです。衛生の設備は實によく備ふた者です。飲用の水なども、ネヂをひねればぼつ／＼と恰度口にはいる位づ、飛び出て来るやうな仕掛けになつて居ります。

汽車の中でもロービキのコップがありましてそれで水を飲んではめば一度々々に捨てるやうに出来て居りました。幼稚園でも手拭のかはりに手拭ひ紙がそなへつけてありました。

### ○ゆつたりと強く

モンテツソリー女史の事を上陸早々聞いて見ますと、シャトルでは「名前は聞いて居りますが：あれは低能児の教育法でありませう」といふ位な簡単な挨拶を得たゝけでした。當地で黒んぼと亞米利加人と支那人と日本人四色を入れて居る幼稚園がありました、「日本の子供の頭はどうですか」と尋ねて見ますと、「よろしい」といふ答でした。どんなによろしいかと聞きかへすと、黒んぼよりは、支那人よりはよいと云ふ事でした。私は日本人の頭は西洋人に譲らないと信じて居ります。しかし、徹夜で勉強するとかいふ場合になると、二晩三晩の競争には堪へられますが、四晩五晩六晩となつて居ります。

ては、どうも殘念ながら敗北するさうであります。

體力が弱い之れは致し方のない事實であります。體力を今少し練磨しなくてはなるまいと切に感じた事も御座いました。體操ばかりが體育ではあります。日本の學校では體操の仕方は如何にも立派ですが、それつきりで別に體育に注意して居るやうに見えません。體操の時間だけが體育のやうな心持ちになつて居ります。むかうのでは體操の時間の外に活潑に運動をするのですから、何だか體操の時間は遊び半分のやうです。西洋人の精力のつよくといふ事についていろいろ考へさせられましたが、西洋人は七曜を數へる時に、日曜日を先きにします。はじめ一日を休んでおいてから、残りの六日をはたらく、即ちはたらく爲めに休むのですが、日本人のは六日をはたらいで殘る一日を遊ばうといふ事になつて居ります。遊ぶ爲めに働くと云ふ風に見えます。此心持の相違はなかく軽るぐしく看過すべからざる事であります。

と立つて電車の通り過ぎるのを待つてそれからさつさと歩いてゆきますが、日本人は慌て、電車の前を驅けぬけて、それからは安心したやうにばつ／＼と歩いて居ります。

米國へ行つた日本人の話を聞きますと、米國は暮し易い處だ、一日はたらけば二日休める。一ヶ月はたらければ二ヶ月休めるといふ。老年に及んで樂をする爲めに若い中にはたらくといふは日本人の哀れな風習であります。西洋人は働くといふ事が主なのですから、ゆつくり大きく永久にはたらいで行きます。此國民性の相違も私はつく／＼と考へた事であります。

### ○のんびりと鷹揚に

今一つはあちらの子供がどんなに大きく育てられて居るかといふ事を適切に見せつけられる事が

ありました。午後の二時頃町を歩いて居りますと、

## ○シカゴ

小學校の一年位のお嬢さんが袋に入れた菓子を食べながら歩いて居ました。私は試みに「プリース」と云つて、お嬢さんの前へ手を出して見せました。さうするとお嬢ちゃんは無邪氣な顔をして私の顔を見上げて、袋のまゝ私にさしだしました。此袋から幾つでも取れよとの意味であります。私は驚きました。仕合せがよかつたら一つか二つつまんでもらへるものと思つて居たのに、袋のまゝ差し出された大きな心持に驚かされました。そして之れだけ見ただけでも今度旅行に來た甲斐があると思ひました。一つだけ有難く頂戴して紀念に持つて参りました。

シャトルの方では出産届を出しますと、區役所で育児の注意書のやうなものをくれる事になつて居ります。私も参考の爲めに二三もらつて参りました。ひまにまかせて雑誌か何かにのせて見たいと思つて居ります。

シャトルの方では出産届を出しますと、區役所で育児の注意書のやうなものをくれる事になつて居ります。私も参考の爲めに二三もらつて参りました。ひまにまかせて雑誌か何かにのせて見たいと思つて居ります。

東京の子供は物を多く知つて居て困るのに、まだ幼稚園で教へ込んで食傷をして病氣になるといふやうな把憂を聞かれる方があります。米國の子供は日本の大人よりも智識をもつて居るのに、まだ教へて居るのですから、明日にでも死んでし

まいさうな者ですのに、なか／＼死にさうであります。私はあちらで、電車に乗つて腰をかけるとぼうと下の方が暖かくなるので不思議な事に思つて居りました。小學校へ參觀に參りました時、先生が此事を生徒に質問して居られました。そして小さな子供が立つて、「あれは電氣の熱が利用してあるので腰を下ろすと兩方の電氣が相通じて熱が起るやうになつて居るのです」と云ひました。これで私もはじめて合點が参りました。之れについて思ひ出しますのは、青島占領の當時、我軍が入城しました時、獨逸の子供が之を見て、あれは何砲、これは何銃々と術語を用ひて説明して居るといふ話です。此の事を私に語つた軍人が「これだから獨逸はなか／＼油斷がならない」と云ひました。

此間、新聞に幼稚園反對論が出て居たやうでしたが、苟しくも人が眞面目にやつて居る事を批評する時にはよい方面とわるい方面とをあげて眞面目に批評すべきであつて、ひやかし半分といふや

うな態度は甚だ好ましくない事と思ひました。そして智識を持ち過ぎるといふやうな説は全く無意味な事と思ひました。

それから、子供の病院を見ました。慈善病院ですがなか／＼立派なものでした。立派と云ふよりは清潔でした。入院兒の母親は乳を飲ませに来るだけで一切は看護婦が世話ををして居りました。なりかけの子供には、幼稚園の先生がお伽噺をしに来ておりました。日本にこんな病院が出来たら、私も話をして行きたいと思ひました。三階の上の屋根部屋に赤ん坊がねかせてありました。どうしてですかと聞いて見ますと、「かうして外の空氣にあてたり、日光にさらしたりしてやりませんと、皮膚が弱くていけませんから」と云はれました。シカゴではおもちや繪本を見ました。おもちやは十二三種買つて参りました。鐵のものなどは一寸困りますが、木製のものは、どうか日本でも作つて用ゐたいものと思つて居ります。又幼稚園の教授細

目も出来て居りました。私も一部求めて参りました  
たがいづれ何かの方法でお目にかける時があらう  
と思つて居ります。はじめに書いてある事を見ま  
すと、此細目は舟の碇のやうなものである、何も  
かも之によつてしまふのではない。碇を一つ  
投じておいて舟が自由にその範囲内で運動するが  
如く、細目を中心としてせよと云ふので即ち参考  
にせよと云ふのであるといふ事であります。私  
は此説に如何にも感心致しました。

ナイヤガラの瀑布ではその雄大に驚きました。

面白い話ですがボストンで新夫人を迎へると、ど  
の学校出身かと聞くさうですし、ニエーヨークで  
は持參金はいくら? ワシントンでは系圖はどう  
といふのださうです。ボストンは學問地なのでど  
の學校も皆立派なものゝやうでした。

## ○ニユーヨーク

後にニユーヨークに出ましたが、こゝで托兒所

を見ました。托兒所といふ處は、労働者や貧民の子  
供があづけられて居るのですから、さぞ汚い處で  
あらうと想像して居りましたが、處がすつかり反  
対がありました。エレベーターに乗つて二階へ上  
る仕掛けになつて居りました。一室には生後三ヶ  
月から一年までの赤ん坊が、白い清潔な上着をき  
てねて居りました。そして一番下が子供を受取る  
場所になつて居りました。そこには醫者が居て、  
一々子供の健康診斷をして、健康なのだけ預る事  
にしてありました。之を見て、如何にも私共のぞん  
ざいなやり方が恥かしくなりました。それから又  
生徒が三千四百名ある大きな小學校で、火事の練  
習を見せてもらひました。主任の机の側のベルを  
三つ押せと云ふ事でしたから私が押しました。さ  
うすると各教室から子供が列を作つて迅速にさつ  
さと出て来ました。そして三千何百人の子供が少  
しの狂ひもなしに隊伍をとゝのへて校門を出て、

街路を横ぎつて向ふ側に整列しました。其間二分

四十五秒でした。その時二階の窓から米國の國旗をふつて合圖をしますと直に子供は歸つて来て静に授業につきました。時間は前後合せて十分でした、月に二回以上させるといふ事でした。私は歸朝後早速之を實行致して居ります。

### ○モンテツソリー女史と會見

サンフランシスコの大博覽に出してモンテツソリー女史の主管せられて居る幼稚園を見ました、私はどうも要領を得ませんでした。如何にも低能兒教育ではないかといふ疑問さへ起りました。子供は靜に～して居りました。顏色は神經衰弱のやうに見えました。笑顔は一つもありませんでした。そして欠伸もありませんでした。私はローザンゼルスにて貰ひ受けて居ました紹介狀を保姆にして、モン女史にお目にかかりたいと申しますと、今日四時から五時迄に講演があるから聞きに行つてはどうと云はれました。そこで私は行きました。

婦人が二百人位と、男が十四五人來て居りました。女史はでつぶりと爲つた髪の毛の黒い、一寸見ると日本人と眞違ひさうな婦人でした。年齢は四十五六歳位に見受けられました。明晰な聲をもつて居られました。徹底するやうな聲でした。講演の後でお目にかかりたいと云ひますと、今日は一寸都合がわるいから、いづれ時日を定めてといふ事でした。それから、期定の日には宅へといふお許を受けて、其時刻に出かけてゆきました。私は「先生にお目にかかる光榮を得た事を有難く存じます」と云つて、それから、私は或は失禮な事をお尋ね致しますかも知れませんがお許しいたゞけませうかと訊ねると「私はあなたが詰問するのではないかと思ふから、何とも思ひません」と云はれました。次に「時間はどれ位いたゞけませうか」と申上ますと「いくらでもあげます」と云はれました。「私はあなたの幼稚園の子供はあんまり静過ぎるやうに思はれますか」と云ふと「私はあれがよい

と信じて居るから、あゝさせて居るのです」と云はれました、次に「子供に笑顔の少いのはどういふわけ?」「あれは心の中で愉悦して居るのでありますお祭騒ぎのやうに表面にあらはれないだけです」「欠伸のないのは」と問ひますと女史は私の顔をはつと見なほして「あなたは子供が疲労すると思ふのか」と云はれました。そして、「あれは子供が好きな事を自由にして居るのであるから疲労を感じないのです」と云はれました「先生は四歳半迄の子供の玩具を御備へになつて居るやうですが、此の上に作くられる積りか」「作らない積りである、只だ花園を作くらせたいと思ふ」

はどう違つて居りますか?」「フレーベルは理屈から割り出して、いろいろの事にあてはめたので演説的であるのに、自分のは種々の材料を勝手に取扱はせてをして、それを統一して来る即ち歸納的である」との事であります。

それから「どなたか、先生のお弟子が日本へいらつしやりはしませんか」と問ふと「ミス、クライインが行く事になつて居る」と答へられました。

ミス、クライインは只今小石川のプラックマホームに来て居られます。そしてあの派の幼稚園教育を實際に施されると聞いて居ります。

(筆記、文責在記者)

## 京阪神幼稚園の視察

麹町小學校長 土川五郎

—(東京市保育研究會例會に於ける講演の大要)——

私が今回京阪地方へ参りましたのは、京都の拜観が主なる目的で、それにかねて教育觀察を致したのであります。で、一昨年の如く矢張幼稚園のみ參觀致しました。但し今回は見方を換へて保育の實際方面を主と致したのであります。

参觀ました幼稚園は、京都一神戸三大阪三都合七園で、それを六日間に参觀したのであります。

○京都生祥幼稚園

先づ第一日には京都の生祥幼稚園へ参りました。この幼稚園は姫宮さんの主任せられて居るので、一昨年は未だ再興したてでしたから特に今回参觀を致しました。

丁度會集も終り遊戯を致して居られました。保

姆は皆にこやかに活潑に、幼兒は至つてしつかりと力を入れて元氣がありました。摸擬行進や雀などまことに嬉れしそうに致しました。之れに伴ふ唱歌も良く歌へました。次に隨意遊戯に砂場に四

五人、廊下に七八人の女子は巧に越つきの競争、屋内遊戯室では、積木を玩ぶ一團、板排へをして居る一群、モンテツソリーノ色の玩具に二人、築山のあたりに一群、何れも眞の遊戯的で積木などは子供としては大仕掛けさも嬉しそうであつた。室内の積木より板排へよりも興味と自由がみなぎつて居つた。併こゝに注意すべきは運動といふ事である。生祥でもこの點は注意があつた様であるが、殊に寒ひ日には身體の温たまる程に運動せしむる事も大切である。

室内保育を見たいと思ふたが、折あしく組の編成を更へる時であつた、こゝで目に映じたのは保母と幼兒が如何にもよく調和して居つた事である。

こゝの幼稚園では身體検査を綿密に調べてあつた。又知力検査も行つた其結果良好であつた。

○武徳殿での幼稚園可否の噂

午後二時頃にこゝを辭して武徳會に行つて弓術を見、又自分も仲間となつて射た。その時會して居るもの男四人に婦人一人あつた。其婦人に六歳の男兒があつて、頻りに母に何かねだつて居た。母は「此の子はおそ生れであるから、さ來年小學に行くが、それ迄は中々大へんである」と云ふ、と一人の男子は幼稚園に入る事をすゝめた。別の一入曰く「いや幼稚園はいかん、そうな私の親戚の者で小學教員があるが、どうも幼稚園から來た子はやんちやんで困るといった」と而して私が東京の者なる故か次の辭を加へた、「東京やほかは知らんが京都では」、此の事は妙に私の耳朶を打つた。

○神戸幼稚園の山行き

翌日十時に神戸幼稚園に参りました。會集もすみ遊戯も終る處であつた。此の園は望月氏の主宰で、同氏は女史として理論も長じ、發表も計畫も

中々する人ですから、此園の實際を見たいといふ希望であつたのです。こゝでは園の仕事として幼児を二分し、大きい組と小さい組とが隔日に山登りをする。即ち園外保育をするので、今日は、小さい組が致しますので、私も一處に望月さんと参りました。保母三人で三組に分ち二列で参るのですが、もう習慣がよくついて居て、すん／＼履物をかへて獨りで列を作りて出掛ける。途中時々駆走などして参るにも、さして監督を要せぬ。幼児は互にいろいろの話し合をして行く。諏訪山に登らんとする時、一組の四五人が興に乗じて俗謡を歌ひかけた。附添の保母が其歌の切れ目にはかさず、「萬世一系」と唱歌を唱へると幼児は其唱歌の方へ釣り込まれて、俗謡は御大典の歌に美化して終つた。惜しい事には其唱歌は調子の高いのであつたから長くは續かぬ。併し保母の希望は成功したのであつた。石段又石段、坂路は隨分長かつたが幼児は下駄のまゝで實に達者なもの第一の

公園に登り休憩もなく又登り始めて、遂に最上の

○神戸幼稚園の園内保育

公園に到着した。神戸市を眼下に見て展望の域は甚だ廣い。幼兒の嬉しそうな其喜び、あちらの電車こちらの汽車互に談話の交換をやる。先生を中心としていろいろの發表をする。後の方では松葉と竹の葉を持つて來て飛行機を造る。其考への簡單にして巧妙なのに感服した。園を出發する時間が遅かつたので歸りを急ぎ、幼兒はもつと見たい遊びたい、中には鋪山の方へ倘進まんとする勇氣と興味とを有して居るのを割愛して途をかへて歸路についた。此の下り坂は一寸急な所もあるが達者です。到底私共の幼稚園では出來ない位です。望月さんは慣れて居らぬ幼兒について、ちょい／＼と小足に歩ませることを聲で教へて行かれる。中々巧みなものです。中にはすべつて尻もちをつく女の兒もあつたが、ゑへゝと笑つて獨りで立ち直つて下りて行く。實に練習の功は恐ろしいものです。歸園の後に食事がすむ。

午後に室内保育を見た。ひと組は積木（自由）ひと組は書き方、これは月一回づゝ人を画くので丁度その時に當つて居た。これは多分研究的のもと推察される。次の組は足袋のはきかへで、こはせを掛け練習を競争に結び付けたので、モンテツソリのホック掛けが日本化して實用的に競争的に變つたので面白かつた、唯小供を見ると草履のあるなシカバーの取扱等で小供々々によつて速度に差を生ずる場合があるから、公平といふ事の伴ふ事が大切であらうと思ふ。

幼稚園に於ける、競争遊戯にも種類が澤山あるが、其競技によりて種々の公平を保ち難いのがある。幼兒は未だ其れ等の綿密な頭が無いから、不平は云はぬが、保姆は其心を組み取つて極く綿密に此の點を考へてやらねばならぬ。旗送り、旗まはり、球拾ひ等にもそう云ふ事の注意が缺けて居

ると、幸不幸が實力如何によつて定まらないで、其間によくない性質も出て來ると思ふ。この事は此の園であつた事實ではない。競争遊戯について此點の注意に缺けて居る事が、小學校の下級や幼稚園などではよく起り易いから特に申上げて置くのです。

#### ○宇治川保育所

午後二時に當園を辭して宇治川の保育所に參りました。此の保育所は貧民部落にある托児所であつて、生後二十日から満五歳までのものも預かる所です。有田主任の溫容に接し、嬰兒幼兒を見て如何にも其仕事の神聖なのがよく分りました。

二階には二十人計りの子供が搖籃の中に乳をのみ小さき遊び場に力なき歩みを取つて居る。下には四五歳のものが積木をやつて居る。二階に二名、下に一名の保育者があつて、自分の子の様に扱つて居つた。丁度間食を與へる時が來たので、下の

大きい子供には煎餅一枚半、小さい子にはおこし二つ、實に其食して居る様は何とも云へぬ感に打たれました。此の獻身的事業を薄給に甘んじて從事するには、何かより所があらうと思ふて、ぶしつけに尋ねました。主任の外に保育者三人、下働き二人（一人は炊事一人は洗物）皆クリスチャンド又同じ不幸な境遇にある人々であつた。信仰なくては中々に永續するのは稀れである、幼兒は一日三錢で預かるので、食事から一切の費用の大部分は寄附によるのである。幼兒は毎朝母をせかせて嬉んで来る。先づ目を洗ふて（皆トラホーム）衣服の汚れて居る者は着更へさせる。

かかる保育所は神戸市に四ヶ所あるといふ事です、市に於て十分の補助を與へて、此獻身的に從事せらるゝ人の待遇を高めて其志に酬い、設備をよくして貧兒なるが故に特に清潔なる衣服、面白き玩具、愉快にのびくと遊べる遊園を作つてやつたらば、誠に結構だと思ひました。序に付け加へて

置きたいのは此の保育所を終つた子供は、清風幼稚園に一年入つて後小學に行くとの事です。

○望月女史の會集

此の日は大阪に参り一泊し翌朝再び神戸へ参りまして、神戸幼稚園の會集を見ました。

朝早く行つたが既に望月氏の室には大阪の膳氏が來て居られた。望月氏は膳氏に龍の話をしてくれと乞はれ、膳氏は土川さんがお出でなつたのだからと、望月氏に譲り、其間の問答掛け中々に巧妙なものでした。遂に望月氏が司會する事になつた。前日に園に飼養してあつた小鳥が死んだ。其の小鳥が其の材料になつた。

二百名近き幼兒の前に望月氏は此の小鳥を示し其來歴、園にありて皆を喜ばせて居つた事より同、居して居る雀の不心得より死に至れる一通りを語る。全幼兒肅として耳を傾け同情の感、顔に表はれ、其司會者の言語態度實に手に入つたもので、其

情も適當に喚起された。終りに此鳥は明日埋葬してやるから、嘴も羽もどこもよく見てやつて頂戴と觀察に移して終つた。殊に有益に拜見した。次に椿と天笠葵と何れも花開けるものを提出して、ひらいた／＼何の花がひらいた椿の花（葵の花）が開いたと手拍子打ちて行進に移る。當園創作の鸚鵡の遊び、昔しの家鳩の遊戯に似て幼兒には面白いものと思ふた。

當園は望月氏が全力をあげて献身的に主宰されて居るから活氣が満ちて居る、女史は隨分根氣よく何でも細かに調査研究してよいとなると之れを徹底させねば止まぬと云ふ様に見える。テストの如きも三田谷式に満足せずして、所謂望月式に變化させて居らるゝ所がある。

○兵庫幼稚園

午後にこゝを辭して兵庫幼稚園を見た。こゝは榎本女史が園長で幼兒百四十名、自由に室外で遊

んで居つた。やがて食事となり再び運動場に思ふ

○大阪船場幼稚園

まゝの活動を取つて居た。次に室内保育に移りひと組は唱歌、ひと組は糸巻競争であつた、これは一定の長さの糸と、わくとを持つて同時に巻き始める。右手で十回左手で十回、結構な遊びで皆一心になつてやつて、先きに巻き終つたものから順次に黒板の前に立つ。其喜び顔は可愛らしいものであつた。序に此の競争では糸の長さを一定することは勿論であるが、右手十回左手十回は一寸幼児が競争熱の昇騰の場合は誤り易い。勝敗の一回は右手のみ、次の勝敗には左手とすると誤りなく公平にゆくものである。次に一の組の圖畫、よくかいた紙の表裏共に使用したのは經濟的で幼児の思ふことをかく事が出来る。他のひと組は庭で競争をして居た。活潑で中々努力が見えて居つた。

此幼稚園は一體に和氣が満ちて居て、別に束縛がないしてよく纏まつて居るのは實に價值ある事と思ふた。

廿六日から大阪市の幼稚園を見る事とした、先づ船場幼稚園へ参りました。小學校の附屬で主任は金谷女史である。實におだやかな品位を持つた風采と動作は此幼稚園の平素の教育を想像するに難からずと思はしめた、私は京都から風邪を持越して随分苦しんで居たが元氣を起して參觀に來たのであつたが、こゝの校長と金谷主任も風引き、主任は少々私より後れて出勤された。主任の見えぬ内は次席の保母が應接をされた。何かお尋ねがあれば知つて居るだけは御答を致しますと、明確な御挨拶で誠に頼母しいと思つた。

幼児の教保婦の出身など、いろいろ伺つて居ると金谷女史が見えた。

私は幼児を見たいので、應接室に居る間も窓から庭を見下して居ると、可愛らしいのが、あちらにもこちらにも、しかも少しも寒そうにして居ない。

女の子で一人廊下に毬をつく。初めは手でついて少し勢がよくなると片足を揚げて巧に足尖で毬をつく。凡そ八回位つく。足で毬をつくのを見たのは始めて、やあつた。

やがて會集が始まるので下に行つて拜見した。

三十位の保姆が司會者であつた。題はしひて付ければ日露親善とでも云ふべきか。丁度露太公殿の御來阪の後であつたからで、小學校の児童が旗を持つて歓迎に出る所が、雨天のために其旗を用ひなかつた。それを昨日幼兒に貰ふた。其邊から題を定めたらしい、黒板に露兵が旗を先頭にして、五六人の行進の圖が畫かれてあつた。先生は先づ第一に此の旗はどこの旗かと發問された。アメリカと云ふ兒が多かつた。困つて居られるとロシアと云つた兒があつたので、漸く話題に入ることが出来た。旗を色チョークで三色に幼兒の持つて居るものと同じやうに表はしたら、さのみ六ヶ敷くはなかつたのでせう。話の意味は露帝の

一番親しい太公殿を日本の天皇陛下の處へ御遣しになつて、いろいろの結構な品々を差上げ、我陛下からもくさぐの美事な品を差上げたといふやうな話で、誠に平たく幼兒に分るやうに説かれたのは感服でした。かう云ふ皇室に關する話は露國と我國との釣合を同じ様に使ふ事は一寸間違易いこと、思ふ。終つて隨意遊戯に移り、砂場や滑り臺其他思ひくに嘻々として遊ぶ。全體から見て、自由に、而かもよく纏まつて、保姆と幼兒の間の親密に、且保姆の態度の立派なこと、幼兒の元氣ある點はたしかに平生の努力の表現であると思ふた。應接室に戻つて女史と相對すると、種々の疑問を出された。問ひが私から出ないで向ふから出るのは妙だ、考へて見ると平素研究の結果疑問があつて、解釋を参考として要求されたので、其熱心なのに感じて、私も無遠慮に思ふ所を述べました。

女史は私を如何に見られたものか、幼兒に何か話

せよとのこと。私は幼児にあまり話したことはなし、大阪地方のアクセントと關東弁では大分違ふから其故を以て辭したが、東京のお方の話しあは分るとの御挨拶で、とうへへ征服されてしまつて、幼児全部を集めでお伽噺。何んと云ふ大膽でせうか。旅は恥のかき捨とは申せ、東京で恥がさらし切れず、大阪まで持ち込むとはと心に恥ちましたが、同じ保育の道に盡す女史のきれいなお心に釣られて遂にかかる境涯に落ちた。併し幸に子供が私の心を組み取つて、大人しく喜んで長い話を聞いて、よく分つたとの事で漸く胸を撫で下した。次は大寶幼稚園にと向ひました。

#### ○ 大阪大寶幼稚園

大寶幼稚園も小學校の附屬で、尾崎女史が主任であつた。こゝは運動場が小學校のみにあるので、これを使用するため午後一時から保育を始めて居る。これは他に見る事の出来ぬ所である。前の

幼稚園で話した關係でお伽噺をこゝでも致しました。女史は就任して三年、此園を十分に發達させ思ふ所を徹底させたいといふ意氣は私を強く感せしめた。女史が主となつた摸擬運動(體育的)と表情遊戯を三つ、實によく繰つて且面白く元氣ある動作であつた。室内にてひと組は貼付け、これは中々よく出来て、圖案的に對照よく多くの飄簾と花とを貼り、幼児が努力して其成績を見ては喜びの色を表はして居た。次の組は繋ぎ方であつた。こゝは取扱ひが至つて老練であつたが、順序と配付と、これを繋ぐ注意とに今少し力を加へたら、申分がないと思ふた。次は書き方で飛行機を數種に書き分け、自由に其一を選擇せしめて居つた。児は中々上手に、そして嬉しそうに私にも見せて居つた。次は鏡の繪であつた。家や門や文字を、出来たものより取換へへて根氣よく遊んで居た。こゝは午後の始まりといふ變態で、保育室も遊戯室も其構造の不完全な中に良く幼児を取扱ふて居

らるゝ。かゝる處に保育を施すは隨分骨が折れると思ふた。保姆がやさしく幼兒に接して、而かもよく引きしまつて居る所は、たしかに此園の長所である。

○ 大阪江戸堀幼稚園

次に江戸堀幼稚園に行つた。一昨年參觀して報告した事があつたが、用事をかねて訪問をした。丁度遊戯であつた。馬の遊びを此頃團體競争に仕組んだとの事で拜見した。

木練瓦を一定の場所から一組八人宛二組各自に運んで木馬を造るのである。木馬が出来ると、先生から旗を貰つてそれに乗る。實に得意満面に溢れて居た。八人一組が早く皆一様に旗を肩に馬に乗り揃ふたのが勝である。子供の遊びを調査して團體競争に移した所が貴い事と思ふ。唯まはりに見て居る同組の幼兒の處置を考ふる必要がある。此子供も源平各組に分つて、己れの組に聲援を興へ勝敗の中間に入れた方がよいと思ふた。

次にボートを作る競争、これは各十人一組とし源平に分ち、一組で一艘の舟を木練瓦で作る。作り上げた組は其の舟の中に漕ぐ姿勢に位置を占める。而して勝敗が決するのであつた。

次に毎拾ひで散亂して居る毬を二つの籠に入れて早く己れの組の色毬を入れ終つた組が勝とし、これを又保姆が其二つの籠の毬を少し移しかへて重量に大差なからしめ、幼兒全體をして重さを検せしめ、重しと思ふ者は其籠の方に並び、最後に天秤にかけて輕重を明にして、勝敗を定める。至極よい思ひ付きと思ふ。こゝでも強ひて請はれたので話し方もし、互に打あけ話しもして交換致しました。自然物の應用は膳女史の獨創、しかも、昨年とは又進んで居る事を見た。

先大阪も短時日であつた爲に、豫定通りの參觀も實行出來得なかつたが、此の三日は自分に取つて十分の利益を與へられた。  
尚京阪神共に何處に行つても快よく同じ仲間味方として厚き待遇を受け打解けた快談を爲し得た事は深く感謝する處であります。

# 無口な子供を教育した実験

## ○謡唄でさそひて

静岡市私立櫻花幼稚園園長　宇式かん

私の尤も興味を以て保育せし一人の女兒につきて、此子供數へ年六才にて四月入園致しました。家は兩親と妹一人との四人の家族、それに下女が居りまして、家長の職業は骨董の仲買、先づ豊に家内圓滿といふので御座います。此女兒始めて母親に伴はれて参りました時、母親の申しますには身體は御覽の通り大きく、これと云ひて病氣もありませぬが、たゞ物云ふこと出来ず、これまで名ある醫師の診察も乞ひ種々手當をも致しましたが、更に効なく、或醫師の申さるゝに、この上は幼稚園に入れ、多數の子供と遊ばせる事が出来れば、或は物云ふことの出來得る様になる哉も知れぬ。夫れより外に道なしと云はれました。どうぞ強て入園を

お願ひ致したいとのことで御座いました。即ち其幼兒を見まするに、母親の申す如く、體格はよし、色艶もよく、元氣もよき、福々とした圓滿の幼兒でありまして、物云ふことは出来ませぬも、耳は聞ゆる様子であります故、鈴を振りて試みましたるに、慥に聞ゆることを認め、心強く思ひて兎に角入園を許しましたのでした。で當分は自由に任せ置く内も、成可く言葉の明瞭な幼兒の側に置き、自由遊びの際も注意して話好の幼兒と遊ばせ、六ヶ月程立ちましたが何の驗も見えませんでした。何とかして今少し工夫をして見なければならぬと思ふ折から、謡歌の流行の頃となりましたので、此の謡歌によりて聲を誘ひ出さうと苦心しましたが、そうかうする内、遂に其の年も暮れました。翌新年に母親が其の子と共に年始に参り、其時其母親が御蔭様にて口の内にて何やら申す様に相成り誠に

有り難く存じて居ります。併し只にては依然何も申す事出来ませぬが、毎を持てば、言葉は何やら聞取れませぬが毎を持て居る間は始終何やら申す様になりました。實に何とも云ひ知れぬ程嬉敷感じますと申されましたので、始めて口のきける糸口を得たと思ひ、夫れより口の形にて少しづゝ發音を始め、成可く自然に任せ方針を取り、日を追ひ月を重ねるに隨ひ、漸次「おはよう」又は先生等の言葉がおぼろげに云へる様になりましたのは、入園後一年二ヶ月程であります。夫れから目に見えるやうに物云ふこと出来、友達と遊ぶことも出来、又物云ふことを自分でも面白いと思ひますにや、何物をか見れば必ずこれは何と尋ね、其物の名の云へるまでは幾度も繰返して、にこ／＼として居りました。其内に學齡に近づきましたから、入學の可否につき母親が相談に參りましたが、今直ぐ入學させることの不可能なることを話し、一ヶ年の猶豫の手續きをして、其翌年は一ヶ年遊ぶ

覺悟で入學しましたるに其通り其年は遊び、其翌年、普通より一年後れて、一學年を普通に稍劣る位の成績で修業いたし二學年になりましたが、丁度其時其妹が入園しました處、二三ヶ月の後途中で其子に出合ひましたとき『先生妹が入園してお世話様になります』と立派に挨拶を爲しました。二學年より先普通に尋常科を終へ、女學校に入學し、二學年修業の後、今は家庭にありて普通裁縫の稽古に通ひ、何れに出しても恥しからぬ立派の娘となり、此の春になりまして或高等學校に修業中の某を迎ふる婚約が出来ましたと、一家の喜び計り知られぬ程であります。これ實に我子の將來を考へて心をつくした母親の眞の愛の賜に外ならぬと信じます。此の母親の心勞は實に今之成功を生みましたので、其當時の憂きも今は大喜びとなりましたのであります。一體この女兒の母親は、それによく子供と云ふことにつきて、眞に心を用ひ、入園當時より今日に至るまで、人の察し得られぬ

憂きことも耐へ忍びましたことは、敬服の外なく  
私共皆存じて居りますので御座います。

### ○自重心に訴へて

岡山市  
幼稚園長

折井彌留枝

無口なる女兒の園内に於ける有様を申上げます  
年齢は唯今六歳余で、来る四月より尋常へ入學の  
筈であります。入園は大正三年九月で有りますが、  
爾來同四年三月迄年少の組に編入して有りました。  
入園以來一ヶ年間は殆ど一言も申せし事なく、  
朝夕の挨拶は勿論、其他自身より語る事もなく、尋  
ねし事も答へず恰も啞者同様の子供で有りました  
が、日日手をかへ品をかへ、種々誘導いたしまし  
て、常に此子供の爲に特に注意をして個性を調べ  
て居りました處が、此節では其甲斐が有りまして、  
段々とものを言ふ様になりました。今其状況を申  
上げますが、先づ入園後二週間程は腰を掛けず、

只々保育室の隅へへと後ずさりするばかりで、  
顔をあげず、只俯いて下をながめるばかりで有り  
まして、殆ど困りましたが、段々馴れると共に二  
ヶ月程してから、腰を掛ける様には成りましたが、  
唱歌をうたはず、遊嬉や手技などには一向手も出  
さず、一體何が面白くて日々通園するのか殆んど  
分らず、色々研究いたして居る中に、早や年度も變  
りまして、大正四年四月となりましたから、年長の  
組へ繰上げたならば、何かの動機に依つて口をきく  
様になるかも知れぬと思ひまして、組を繰上げま  
した。處が一期の間は相變らず元の通りで有りました。  
併し様子を見るに年長者の組に繰上げられ  
たのは、少しもいやな様子でない様である。斯くて  
第二期に入つた頃、其子供を別室に招き色々物語  
をいたしました末に、「アナタ」も一つ年も大きくなつて大きな組にお成りなさつたのに、なせ物をお  
ゆいなさらないのですか、先生が呼びました時にお返事をなさらない様では大變困りますから、

朝の御挨拶やお歸りの時に左様ならと云ふ事や、先生がお呼びになつた時には直ぐ「ハイ」とお返事をして戴きたいのです。若しお返事が出来ませんならば元の年少の組へ歸つて戴きませうと話しました。處が意外にも『御免』と謂ひまして聲を立て泣きました。其時には私も思はず嬉し涙に暮れました事でした。夫から受持保姆さんに渡しましたのでしたが、其日の歸りの時には各組の先生に挨拶をして歸りましたので、一同驚く斗りに歎びました。夫のが丁度大正四年九月十五日で有りまして、入園より満一ヶ年経過した時で有ります。引續き其翌十六日の事で有りますが、電車の話を聞きまして興味を持しと見え、袴紙にて電車を褶みました事が、そもそも入園以來初めての動作で有りました、爾來今日迄で他の子供と同様に保育を繼續して居ます。次に九月廿七日から畫方が出来る様になりました。初め兎の袴紙を貼付ましたのが動機となりまして、草を書き始めました。猶

同十二月十七日の事一同に人間をおかきなさいといつて試みましたが處が「マント」を着た愛らしき女子を書きましたが、實に其綿密な事と且注意力に富んで居る事に驚かされました。尙該兒の嗜好物としては、袴紙と畫をかく事で有る様です。其他動作遊嬉の時には只進行のみで有りましたのが、近頃少しは動作などをいたす様になりました。尤も園外遊戯などには少しも運動などをせず。又他兒とも遊びませず、一定の場所に立つた儘で居るので有りますので、努めて保姆が注意を加へ誘導致して色々と運動をなす様に勧めて居ます。

殊に困りますのは辨當を持て郊外保育に出ました時などにも、食物を口に入れる事もせず、只立つた儘で殆んど何にたとへ様もありません始末であります。昨年の秋當地奥市公園へ参りました時、始めてお辨當を無理から戴いたといふ工合にて、實に氣の毒な程憐な子供で有ります。どうかして普通の子供に致して遣りたいと思ひ日々特に注意

して保育を致して居ます次第であります。

偕て家庭の關係を調べて見ますと士族の產で

有りまして、極めて嚴重なる家庭にて兩親も揃ひ居り姉もあつて一番末子で有りますが、尙ほ家庭に在るときの實際の有様を聞ますに、家に有つても矢張り無口にて極めて恥かしがりといふ方にて、他へ嫁ぎし姉さんが久振にて参りても、一向口もきかずに只恥づかしがるといふ始末で有さうです。たゞ幼稚園の事などは歸宅すると一々兩親に話を爲し、又唱歌遊嬉なども樂しく温習をいたす様子で有ります。

然るに此家の遺傳とも申すべきか、此子供の肉身の者に極めて無口なる人がありまして、學校にても一言も發せず、遊歩時間に於ける居處も常に一定せられて、其場所に穴があくとまではいはれたさうで有ますが、何事も言葉にあらはすより筆で書きあらはす方が立派であるといふ事を聞き及びましたので矢張遺傳的で有る事が解りました。又

家庭にて遊ぶ時にも手の汚れる事などは決してせず誠に潔癖で有るさうであります。

又身心の方面より申せば身體の發育は普通にて壯健で有ます。性質は綿密、動作沈鬱、習癖恥があり、潔癖、又幼稚園にて貸與する玩具其の他器具鉛筆、粘土等に至るまで一切不潔な品である様に思つて居るやうで有ります。又常に愉快らしく笑顔した時を見受けた事が殆んど有りません。

前述のやうなる次第で有りますので、特に保育上の注意を拂つて居ります。又成る丈けものをいふ動機を作つて與へて居ます。然るに此子供が一ヶ年餘にして漸くものをいふ様になりましたのも、玩具や畫などにて誘導いたした結果ではありません。畢竟倉橋先生の御持論の如く全く之が信念に依て真心を込めて彼に十分同情を寄せて得られたる賜で有ると存じますが、猶殘る三ヶ月間には又幾分かの効果を得られる事で有らうと存じて居ます。何卒不相變御示教のほどを願ひます。

# 幼稚園可否の論を読んで

麹町小學校長 土川五郎

先達「幼稚園に兒童に入るゝの可否」といふ問題が讀賣紙上に出て、山脇房子女史を第一として八人の名士が意見を述べられ、六人の愛讀者が思ふまゝを讀者の聲といふ欄に吐かれた。

これを一々熟讀して見ると中々面白く、吾々幼稚園に關係ある者の参考になる事も多い。識者は曰くあれは暴論である、ひやかしに等しい者である、吾々眞面目に從事して居るものから見ると之れの相手になる價値がないと排斥して一顧を與ふべきでないと。併し一面社會が幼稚園に注目する様になつた事は喜ぶべき事で、又一面には社會の幼稚園に對する感想の表はれたものと考へ、之れを比較し研究的に讀む事は最も興味あると同時に、中には世の誤解を招き易い事柄もある。又教育者はかかる説に對して如何に辯明するがよいか

といふ諸點から、私は之を價値あるものとして聊卑見を述べて見たいと思ふ。但反対者の少なく隨て其意見の少なきを頗る遺憾に思ふ。

さて山脇女史の否定論は先頭第一に掲げられ、又大に誤り易い點もあるから、女史の説を約述して思ふ所を述べて見よう。

1 幼稚園は母親が病身か多忙の爲めに教育の出来ぬ家庭ならば通はせるのも宜しい。

元來幼稚園は西洋を真似て造つたもので、中流以上のものが通ふから、自分達の子供も通はせぬと、子に對し手をつくさぬかのやうに思はれる虚榮心と、自分が一生懸命に骨折つて立派な人物につくらうといふ熱心の足りない爲、即母親の怠惰からして通はせるものが多い。

2 五六才は人間の最も、大切な時期でこの時の

教育如何によつて其人の生涯はきめられる。其れを他人の手に任せ等閑にするは大なる心得違ひである。中には大勢のなかにまじつたら圭角が取れるなど云はれる人がありますがそれは小学校からで宜いと思ひます。

3 他の子供衆は幼稚園に入つて智恵づいて居る處へ、何も知らずにぱーつとしてゐるのはと苦しむ人もあるが子供の時は少しぱーつとして居る位がよい。

4 私は日本婦人が少し進んで我子を幼稚園に入れぬやうになられるやう切望して居ます云々第一のお説は今の幼稚園に子供を通はせて居る母親の心を解剖されたものと見られる。健康で、さのみ多忙ならざる母親にして、我が子を入園せしめて居るものは、虚榮心の満ちて居るか怠惰者の何れかであるとの御宣告である。女史は隨分思ひ切つて之等の母親を侮辱されたものである。即ち幼稚園は病身と多忙なる母親のために建てられた

ものとして、其他に子供を入園せしむるは母親の罪に歸してあるが、女史は果して幼稚園なるものゝ設けられて居る趣旨や現在保育の状況如何を御存知なのであらうか。女史は唯單に幼稚園なるものを知つて居られぬのではないか。

又女史は入園せしめて居る母親の多數に對し、其入れて居る母の心を御調べになつたのであらうか。單に一二の特例を以て、全般を推したのではあるまい。幼稚園を否定するとせば、少くとも幼稚園の趣旨や目的又は方法について可否を論すべきである。又母の心が虚榮か怠惰かと非難するならば、宜しく一般的の例を捕へ、具體的に否認するが至當である。幼稚園の何物なるを知らず、二十年前も誤られたる二三の保育状況をもとゝして、しかも相當の社會上の地位を占めて居る婦人に對し、侮辱的の言語を弄された事は教育家として女學校長としての女史の爲に惜むべき事である。

2 女史は五六才の時期は大切で、其教育如何は

生涯を通じて大なる影響があると認めて居る。この大切な時期なるが故に他人に托してはならぬといふ理由は何處にあるであらうか。若し此の理由が真であるならば、小學時代も大切である。小學時代には何故に母の手より若干時を他人に托するか。小學校の教育が母一人にては出來ぬと認められて、而して五六才の大切な時期は母一人で完全に出来るものと認められるのであるか。又他人の手に托する事は（大切な時期故に）危険なり有害なりと云ふ意味になるのであるか、少くとも他人より母に托するが安全なりと云ふ事は、保姆に對し敬意を拂はず信用を措かね事になる。尙若し最も善き意味を以て解釋すれば母の愛母の知母の誠意を以てさへすれば幼稚園の教育は足れりといふ事になる、かかる婦人が多數に有り得べきや否や人には各々長所がある又缺點もある。母が家庭教育を行ふにも亦長短がある。汽車や電車に乗つて子供を連れて居る母をよく觀察して見ると其長

短が屢々吾人の目に映する。その時の吾々の感想は果して如何でせうか。その外にまだぐ吾々の目に入らない長所と缺點とが澤山ある。此の缺點を補ふのも保育（一部分であるが）である。

此の缺點も補つて、我子をよき人物につくらうとして入園せしめて居る感心な母親を「他人の手に任せ等閑にする心得違ひである」とのお叱りは餘りに圭角のあり過ぎる、そして家庭に通じて居ないお説ではあるまいか。圭角で思ひ出したが「大勢にまじると子供の圭角がとれるといはれるがそれは小學校からでよい」と云はれた。子供に圭角があるでせうか。子供の圭角とはそもそも何をさしたのでせうか。大人には男子も女子も圭角のある人がまゝ見受けられる。女史は子供といふものに關して、もつと御研究が願はしい。子供についての研究が積めば、幼稚園の必要なり目的が自然に分るやうになるとと思ふ。

3 女史は幼稚園はいろいろ教へて智恵づけるが

子供は、ばーつとして居るのはよいと云はれた。大器晩成説は結構であるが、今の幼稚園では知識を注入する様な事は決してありません。又ばーつとして居るといふことは、憚巧不憚巧とは意味が違つて居る、こせつくなと憚巧とは別である。

4 日本婦人のもう少し進んで云々は理想の日本婦人を現實にして幼稚園を驅逐せよ、幼稚園の驅逐された時は、やがて日本婦人の進みたる時で、此の時代を切望すると云はれて居る。處で進みたる日本婦人とは如何なる意味でせうか。完全なる或は完全に近き婦人は幼児を教育し得ると假りに致して置いて、かゝる婦人はいつの時代に現實になるでせうか。果して容易く得らるゝでせうか。そういうふ意味で、いつの世に幼稚園の必要なき時代が来るでせうか。かゝる事は一の理想否空想であつて、女史の結論は空論に過ぎないのである。

況んや幼児には自然の發達上社交的本能、國體的本能の表はれる時がある。此の本能を満足せし

むる事は、母一人又は家庭の僅かな人で出来るでせうか。其本能の性質上如何なる賢婦人でも此點の教育者として及第の出来ない事は火を見るより明らかである。

要するに女史は幼稚園や托兒所を深く御存知なく、幼児の生活でふ事も究めずして、しかも入園せしむることを母の多忙、母の病身、母の虚榮、母の怠惰等のみに歸し終はられた事は大なる誤りである。もし女史にして幼稚園を知り兒童生活を研究して居らるゝとせば、女史の掲載されたお説に其一端をも見る事が出來なかつたのが頗る遺憾である。且矛盾の點があるのは不審議と云はねばならぬ。又お説の内に西洋のまねと云はれたが之は何ぞ否定の意味に關係がないし、「英國人の立派な見識」をたへて居られたが、之れも否定には役立つて居らぬ。これ位の見識は多き日本婦人にも決して無い譯でなく、其の子を幼稚園に入園せしむるに何等の衝突もあるまい。

近頃は我子を入園せしむる爲に、其園の主義方

す

法を詳しく聞糺して後に幼兒を連れ来る進みたる婦人も尠くなく。又之に對して立派に満足を與ふるだけの考を以て實行して居る保母も澤山ある。

必竟女史のお説には、何等か女史の本意にあらざる誤謬の點もあつたのであらうし、又私も幼兒

教育の大切なる事を考へて、公にせられた全體に對し思ふ儘を述べた事を諒せられたい。

さて次に山脇女史の外八名の名士と六人の愛讀者の説を一括して且其の論據を分類すれば次の如き現象が表れる。

(一) 否とする説

(母) 1 母は絶大の力あるものなり

2 母は無限の愛を有するが故に教育上絶大的

力あり。

3 母として最愛の子なるが故に他人に托する

は否に

4 家族が入園を賛成するは母の不信任を意味

5 真實の力ある教育は母に勝るものなし

6 母が入園せしむるは母の不熱心なる故なり

(子) 1 入園したるものは早熟す

2 入園すれば社交的生活により氣を使ひて心

配す

3 自信力乏し（入園したる子供は）

4 入園して知識徳行を得るの要なし

(園) 1 幼稚園は壓迫する所なり

2 知識技藝を教ふる所なり

3 窮屈なる所なり

(結果) 1 小學に入りて教師を輕侮す

2 一二年は發達よきも進むに従つて成績上ら

ず

(二) 可とする説

(母) 1 母には教育的知識技能なし

2 四六時中母が其子の教養にかかる事は不可

能なり

(子) 1 家庭にあるものは早熟す（特に兄弟少なきものに然り）

2 大人と同一歩調を取るが故に多方面に知識増して子供らしき知識徳行なし

10 惡徳の萌芽を断ち善徳を助成す  
11 幼稚園は知を授けず成長を助成す

3 一人子は自儘強く意志弱し

13 家庭の缺陷を補ふ

14 運動場なきか都會の子供には必要なり

15 家庭は單調なり

(園及び家庭) 1 入園せしむれば間食過多の害を受けず  
2 悪友を避く

3 家庭にありては胃腸を害し身體の發達上障害を來す

4 家庭より直ちに小學に入る境遇の激變と知識を授けらるゝより受くる害は甚多し

5 入園すれば精神界擴張す

6 社交的本能を満足せしむ

7 身體を矯正し得

8 複雜なる生活に入るが故に長所短所明に分かる

9 清潔、物品の整理、時間の整理、社交的知識を得らるゝ

以上の諸點を一々比較し意見を述ぶる事は限りある紙上の許さぬ所と思ふ。概説すれば否論者は母を以て絶大の力あるもの、愛の大なるのは教育し得るとして論じて居る。中には詭辯を弄したるものもある、之れは取るに至らぬものであるが、母は如何に賢婦であつても幼兒の教育に満足を與ふることは出來ぬ。幼兒の要求が幼稚園を生み出したものである。感覺と云はず本能といはず、身體も意志も感情も其幼兒の年齢に相應して自然に

發達表現するものである。これを満足せしめ調節

## 幼稚園可否の議論

倉 橋 生

を與へ助長せしむるには家庭のみにて出來得ざるは明らかなる事實である。幼稚園は其の出來難き家庭の缺陷を補ふこと、即ち幼兒の生活に満足を與へ圓滿なる發達を助成するのである。

可論者の説は幼稚園の性質と必要を述べたのもあるが、其の多くは保育の附帶事項とも申すべきか、家庭と協力したる保育事業の一の現はれを述べてあるのに過ぎない。可論者も幼兒を本位として其根本に立ち入つて否論者を首肯せしむる底の説を多く述べられなかつた事は頗る遺憾とする處である。

○問題は、あなたの幼稚園の良否にある。あなたの幼稚園が悪ければ、それでよろしい。あなたの幼稚園が良ければ、それでよろしい。あなたの幼稚園が悪かつたら、幼稚園そのものを可とする論が百出ても、千出ても、何としようもない。否寧ろ一層進んで言へば、問題はあなた自身である。幼稚園教育は、「幼稚園といふもの」が幼兒を教育して居るのでない。幼稚園に於てあなたが幼兒を教育して居るのである。概念的に議論的に「幼稚園といふもの」がどうあらうとも、園長たり保姆たるあなた如何といふことが、最も具體的な實際問題である。

○幼稚園可否の議論が世間にいろいろ出るのは、至極く有益なことである。幼稚園に從事するものは之等の説に就て充分に聽き細心に注意し研究すべきである。併し、その聽き方研究し方は局外の

人とは全然違つた態度をとらなければならない。

すなはち、局外の人は可否の結論を主とするのであるが、幼稚園従事者にとつては、可否の結論は既に済んで居ることである。一方には國家が其教育法令に於て認めて居る教育として、また一方にはあなたが自信を以て従事して居ることとして、今更結論に迷ふ様な氣の弱いことがあらう筈はない。併し、結論が可でも、實現が果してその通りかといふことは別個の問題である。そして此の點に於ては始終自らを危ぶむ位の敏感と苦勞性とを持つて居なければならない。故に可否いづれの論を聽くにつけても、直にあなたのして居ることに引くらべて細かに考ふべきである。斯くすることによつて、可否いづれの論からも、大に學ぶことが出来る。殊に否論者の言の中にどの位多くの、口ににぎき良薬があるかも知れない。

○更に問題を轉じて、家庭の方からいへば、幼稚園といふものを引きくるめての可否論で、直に早

合點をされてはならない。又幼児の教育の全體を幼稚園の責任に歸する様な論で、問題を切り上げられてはならない。幼稚園——少くも現在の幼稚園は——小學校の様に劃一のものではなくて、保姆の考へによつて、いろいろ違つた流義の教育法が用ゐられて居る。あなたの大切なお子さんを入れさせる前に、それ等の點をよく研究しなければならない。又幼稚園は——特殊幼稚園は別として——決して家庭の代りをする處ではない。家庭と協同して、其の子の教育を完きが上に完からしめんとするものである。幼稚園が家庭教育の責任まで負ふもの、様に考へられたら、それは大きな誤りである。而して其の誤りは幼稚園の誤りではなくて、家庭の誤りである。家庭の方に向つて是非訂正しなければならない誤りである。此の誤見に基いて立てられた、幼稚園可否の論は、實に問題の歸着點を轉倒して居るものである。すなはち家庭は其の自らの教育上の責任を充分盡した上で、始めて幼稚園可否の論に入り得るのであることを忘れてはならない。

夫 ピュウロウ の  
人 の フレーベル 追憶録

S K 生 譯

ワイデンブルツク閣下（つゝき）

この会話のあつた夕刻、フレーベルはリーベン  
スタンへ歸つて來ました、而して私は彼をワイ  
デンブルツクへ引合せました、ワイデンブルツク  
は今まで話してゐた話題を追求し始めました、私  
はフレーベルに話の筋を話して聞かせました。

ワイデンブルツクはフレーベルに向つて言ひま  
した、「それではあなたはすべての人は生れながら  
にして自由である、個人的自由権を以てこの世に  
現れて來たものである」といふ革命家の原理と相  
容れないのですね」

フレーベルは言ひました、「さうです、私は彼等  
の言ふやうな意味でそれを解釋しては居りませ  
ん、人はそれとは反対にあらゆる方面に於て束縛  
に一步々々現今の自由の程度まで漕ぎ付けて來た

されて生れ出て來るのであります、それですから  
人は自分で努力することによつてのみ自由を得る  
ことが出来るのであります、否得なければならぬ  
のであります、自由は與へられるものではありません  
せん、神と雖も自由を私達に與へて下さる譯には  
行きません、何故ならば自由は自己活動によつて  
のみ得られる道徳的、智力的の解脱の所産であら  
ねばならぬからであります。各個人は教育の助を  
借りて幼児期の未發達状態の嚴しき縛めから解脱  
しなければなりません。國民といはず人間種族は  
すべてこの同じ宿題を持つて居るのであります、  
彼等は野蠻時代から出發して時代の経過するま  
に一步々々現今の自由の程度まで漕ぎ付けて來た

のであります。組織的發達の觀念を人の歴史に當  
籠めて考へてみますと私達はすべて眞の自由とい  
ふものは個人の氣儘な氣分を己に反するものとし  
て排斥するところの教養の結果であることを明か  
に又意味深く認めるのであります、けれどもこの  
個人の教養と國民の教養とは促育され得るもので  
はありません又一舉にして得られるものでもあり  
ません、それは連續的の發達の結果であります。  
それですから粗暴な俗衆は自由ではあり得ないの  
であります、否々すべての自由を阻むものは彼等  
なのであります、纔ばかり自由に對して教養を  
持てる者までをも不自由ならしめて了ふのは彼等  
なのであります。自由獲得に努める人々は彼等が  
國民的及び政治的の變化と更新とからばかり一般  
的自由を期待する時このことを忘れて了ふのであ  
ります、國民の自由といふものはその國家を成す  
所の多數の人々の持てる自由の程度に依存するも  
のでありますて、すべて善きものが然る如く——

又人が然る如く——同時に「自然」の仕事であり、  
「人」の仕事であり、「神」の仕事であるのであります  
す、個人の氣儘な氣分に依存するのでもなく偉大  
なる力の所有者に依存するのでもありません。人  
間種族はすべての方面に於て人生の革新を要求す  
る如き現在の發達状態に達するまでには幾世紀の  
間種々なる経験を積んで來たのであります、けれ  
ども人々は生の渾一若しくは人間界に存在する兩  
極の均衡、教養に於ける二大相違の革除、不法に  
壓迫され輕視されて居るものと高めてやること等  
であるべき時代の要求といふものを誤解して居り  
ます。

「人間社會に於ける不同が廢されなければなら  
ぬ、人の平等化といふことが行はれねばならぬと  
いふことをあなたが意味するならばあなたは革命  
家及び革命家の意見に一致するのですね」とワイ  
デンブルクはフレーベルを遮つて言ひました。

フレーベルは言葉を續けて言ひました、「いゝえ

さうではありません、それでは人間の種々雑多な關係がなくなつて了ふでせう、人間界に於ける平衡は神の世界——無限の變化が秩序と調和の手段である所の宇宙——に於けると同じやうにこの關係の上に成立つて居るのであります、世界に於けるこの變化は神によつて定められて居るのであります、それは個人の氣儘な氣分によつて左右され得ない宇宙の法則であります、それは「自然」と人と「神」との共同動作であります、あなたの仰せられた革命のモットーは「すべての人は自分に與へられた力と性向との教化發達を要示する、然れどもそれは各人の現世的關係が各人に指示する範圍内に於てである、而してこの現世的關係なるものは大體に於て個人の努力によつて定まるものである」といふのであります。

「けれども現在に於て適度の教養を受けることの出來ない壓迫されたる二階級があります、すべてのものに教養の於高き程度に達することを得さ

せるためにこの二階級に於多くの自由——發達の自由といふ意味ですが——許容されなければなりません」

「而してその二階級といふのは?」とワイデンブルツクが尋ねました。

「婦人と子どもです」とフレーベルは言ひました、「この二者は壓迫され輕視されるゝの甚しきものです、彼等は人間社會の部分としてその尊嚴を十分に認められて居りません、若し進歩と自由の大部が神及び自然によつて家庭に於ける最初の教育の役目を命ぜられて居るものは婦人であります。この進歩は主として婦人に俟たなければなりません。而して幼兒期がその全部の重要な於て、人類の萌芽としてこのその高き尊嚴に於て十分に尊敬され、名譽づけられ、その性質及び教育に對するその要求に於て認められたならばすべての社會階級及びすべての個人に神より與へられた力及び性

向を發達させ、彼等をして事情と才能とに應じて

勢ならしめてはなりません。

社會の便益のためにそれを用ふることを得させるべき手段と機會とが提供されるであります、

「私はそれが數世紀を要する仕事であることを知つて居ります、現代はその要求に應すべき又人の尊嚴に裏切らない教育によつてその基礎が置かれるることを要求して居ります、而してこの基礎を置くことが私の幼稚園の目的なのであります、幼稚園は民衆の幼児が小さき野蠻人の如く成長するのを防ぎそれから又自由と履遠へられて居る放縱から學校を救ひ出すのであります。

「この最初の時代は教育に於て最も大切であります、何故ならば初は進み方を定め約を定めるからであります、後年國家的秩序を便宜であると思はせるためには、人は幼年期に於て法則と秩序とに慣らされ、是等の中に自由の手段を見出させられなければなりません。放縱や氣儘な氣分は生涯の如何なる時期に於ても、無論幼い頃に於ても有

「幼稚園の生活は理想的に言へば過去、現在及び未來に於ける測微器的<sup>メイクロメトロング</sup>の人間生活であります、幼稚園は内部及び外部の經驗の既得の富及びすべての時代の人間種族の智識をその集大成的結果に於て繼承して居ります。幼稚園は人(幼兒)を意識的の知覺を以てその内外の生活を生活するに適せしむるために家族との原始的關係、自然との原始的關係、彼自身との原始的關係にまで連れ戻ります、私は知覺と云ひました、知識とは云ひませんでし、何故ならば彼の年齢は知識に對しては不相應であります。知覺は思索の開始的豫備的の狀態であります、或人の知覺はその人の概念を喚起します、而してこの概念は發達の後の階段に於てその人の思索を喚起します。早熟は私達の望む所ではありません、自然的即ち存續的の組織的發達が私達の望む所なのであります。

「人間種族が過去から現在までに辿つて來た發

達のすべての階段を通り抜けたこの過程のみが現在の知覺の階段によつて要求される如く人を彼自身及び彼の生活の明かな自覺にまで導くことが出来ます、これによつて人類の活動は最も幼き小兒の活動に至るまで如何に意志に俟つ所が多いかといふことが知られるであります、けれども意志は心によつて定められるので有ります。心は思索する力であります、而して思索は法則に従つて開展して行きます、心は思索の法則によつてのみ働くのであります、而して思索の法則は人の智的活動を定めます、それですから十分に修養を積んだ人の節度ある活動は氣儘な意志に依るのではなく自然生活の現象の如く確固不動の法則に依るのであります。

宇宙の法則は人間教育の法則と同じであります。幼稚園は人の教育に於ける發達の一階段を造ります。次いで来るべき階段が動かすべからざる法則に従つてこの階段から續いて起ることは組織的生活に於ける場合と異らないのであります、人類の友たるものはすべて——彼が如何なる黨派に属するにもせよ——次の階段に對して正しき状態を保證するやうな教養の第一階段を作ることを助けるべきであります。

「理想に近い幼稚園を建設することによつて人々はそれが神の仕事であるか否かを知るであります、而して人といふものは創造的存在として如何に實際的な完全した根據の深い發達を遂げ得るものであるかといふことを知るであります。」

「私の現在の目的は斯る模範的の機關をマリエ

るのであります。斯くて精神發達の法則は世界組成の法則と同じやうに明瞭に理解さることを要するのであります。

「宇宙の法則は人間教育の法則と同じであります。幼稚園は人の教育に於ける發達の一階段を造ります。次いで来るべき階段が動かすべからざる法則に従つてこの階段から續いて起ることは組織的生活に於ける場合と異らないのであります、人類の友たるものはすべて——彼が如何なる黨派に属するにもせよ——次の階段に對して正しき状態を保證するやうな教養の第一階段を作ることを助けるべきであります。

「理想に近い幼稚園を建設することによつて人々はそれが神の仕事であるか否かを知るであります、而して人といふものは創造的存在として如何に實際的な完全した根據の深い發達を遂げ得るものであるかといふことを知るであります。」

「私の現在の目的は斯る模範的の機關をマリエ

ンタルに設置することであり、同時に保母を養成することあります。けれども若い婦人ばかりが幼稚園事業に従事する、つまり子供の性質を理解して生活的にも心理的にも彼等を扶育教導することが出来るやうに學ぶのでなく、すべての階級、すべての生活状態に於ける女性全體が人間の新しい教育に携り神に命せられた乳母及び兒童保護者の如くそれを適用することを學ぶべきであります文明社會の發達の現在の階級が一般に要求する如く若しも女性全體がこの聖職に従ひ得るやうに爲されるならば女性はおのづからその無知と壓迫とから釋放さるゝであります、何故ならばこの職務は社會生活に於て、人間界に於て、女性として相當な位置を男性に示すために女性が必要とする所のすべての教養とすべてのエレベーションとを含んで居りますから。

「この教育を開始すべく私達を助けて下さい、この教育なくしては現在の要求は言ふも更なり將

來の要求も決して達せられません、この教育なくしては神の御心によつて花咲くべき春も咲かずには終つて了ふであります、來らねばならぬものは永遠の法則によつて來らねばなりません、人力によつて之を防ぐことは出來ないであります——それは神と自然の仕事であります、けれどもそれは法則の代りに氣儘が頭を擡げる時人に與へられた自由によつて遲延され妨害されることはありません。

フレーベルの説明にあらはな注意と興味とを以て耳傾けてゐたワイ・デンブルック閣下は腕を扼されました、而して外部の事情が許すに至つたならば直ちに該事業の支持に對して出来るかぎりの盡力を與へることを約されました、而して尙附加へて「この可能性に過度の飛躍を與へない方がいい、でせう」と言はれました。

その當時は大臣を始め誰一人として次ぎの年が私達の聖き主張に何を齎すであらうかに就て臚氣

な預感をさへ持つては居りませんでした。私達の主張は尙理解されずに侵害されつゝあつたのであります。が神の意志の體現者を以て任する直接の代表者の確固たる信仰によつて私達の主張は捧げられて居りました。

大臣の訪問があつて少し後のこと或日フレーベルは「すべての一般教育の敵及びあらゆる種類の進歩の敵が如何に烈しく反対して現れ出やうとも私達の主張は今ではもう確固たるものとなりました」と言ひました。

私は答へました、「さうです、私もさう思ひます。少くとも幼稚園の紹介及び主張の外部的及び實際的の部分に關して私達の主張は多分確立されたことと思ひます、けれども根柢に横る思想は少しも了解されでは居りません、短い公開講演に於ける私達の主張の提示は最も善き人々にさへも彼が引續いて熱心に研究しないかぎりは正しい理解を與へないといふことを私は益々明瞭に知りました、

あなたは根本の思想及びそれより生ずる方法の原理を簡単に語るやうなものを何か書かなければなりません。」

フレーベルは答へて言ひました、「簡単にですつて！ さうしやうものなら人々は私の「人間の教育」を誤解した時よりももつと甚しく誤解するであります。『人間の教育』には少くも私の根本思想だけは明瞭に現してあるつもりなのですが。一般に承認せられて居る人といふ存在の觀念は甚だ漠然として居ります、それから又幼兒の性質は動物の第一の發生期に於て及びその表現に於てほんの少しが理解されて居りません、それでですから記述によつてはホンの僅かに爲され得るに過ぎないのです。

「異つた哲學體系を奉ずる人々が互ひに理解させ得ずして相争ひつゝある様を御覽なさい、言葉の上ばかりでなく兎に角行爲が私の主張の眞理なることを保證しなければなりません。目下のこと

る、幼稚園及び母的感情の實際的の結果が都合よく行つたならば、その時こそ、文章が私の思想をそのすべての深みに於て示すでありませう、又人類の發達の目下の階段に對して私の思想の必要なことを示すであります、而して又今漸く行はれんとしつゝある事物の新觀察に於て私の思想を正しき位置に置くであります。

「さうです、私の思想が正しく理解されること

のないために存在性を失つて了ふやうなことがあつても、それは確かに誰か他の人の心に於て新に目覺めるであります、何故ならばそれは時代の要求であるからであります、而して神は相當な季節に於て果實を生じないやうなものをこの世に送り賜ばぬのであります。

「徐ろに進みませう、神の許容無しには何事も起るものではありません、而して人がそのムラ氣と破壊性によつて善なるもの、眞なるものを如何に干渉しやうとも、人の仕事は神及び自然の仕事を

凌ぐことは出來ません、後者のいづれもは前者よりも強いのであります、人は神によつて命ぜられたものを少しの間妨害的に、破壊的に干渉する事が出来るのみであります。けれども彼等は決して本當の妨害をすることは出來ないのであります。私が理解されず、支持されないにしても——否假令迫害されるにしても以上が私の信ずることであります。

「或時私が私の主張を守つて行けるだけの力を持ち得るか否かを疑問として考へてゐた時、次のような考が浮んで來ました、それは汝が若しも筆を執ることが出来ず、又何等の方法によつても自己を表現することの出來ない暗い牢獄に投せられた場合には、汝は汝の思想を救ふべく如何なることを爲し得るであらうかといふことでありますた、けれども私は直きに、神が私をして體現せしめた眞理をして現代に背かしめないために、私が爲さねばならぬ事柄を悟りました、眞理を明かにす

るために入類の舌が黙せしめられた場合には石が物を言ふであらうと私は思ひます——」

フレーベルは茲で時計を見るために口をつぐみました、時計は一時を示して居りました、彼は何時もこの間に保姆の學校へ行くことに決めて居りました、それで彼は私と一緒に來て手傳つてくれと言ひました。私はその後再びこの話題を捉へやうとしましたがそれは無駄であります、それのために都合のいゝ時は到頭ありませんでした。彼の意見及び思想に對して私の挾んで居る多くの疑點を氷解することが出来たであらう所の多くの説明が爲されずに終つて了つたのであります。けれども彼を何時までも一つの思想に止めて置くこと、若しくは彼を或る瞬時の思想から他の方向に向かせることは不可能であります。彼が一事に屈託して居る場合には彼を動かして他事を爲さしめることは困難であります。

彼の教育を理解せんとして續々マリエンタルを

訪れる人々が彼に殆んど閑暇な時を與へませんでした、而して彼は彼の意見を提示することによつて健康を害ふ位にまで根を疲らして了ひました。

その上、翌年（一八五一年）の夏の教員會議をリーベンスタインに召集して彼の教育原理を討議しやうといふ計畫が屢々問題となりました。それから盛んな家庭のお祝ひ——今まで數月間約婚してあつたレヴィン嬢とフレーベルとの婚禮も又春に行はれる筈であります。

フレーベルは眞の家族生活に憧憬れて居りました、彼は女子の家庭的の教育は家庭で行はれなければならぬといふ自己の原理に従つて生徒と共に行動することを望んで居りました。

彼がディーステルウニッヒと私とに彼がレヴィン嬢（レヴィン嬢はその頃既に細心に彼の家事を取締つて居りましたし、生徒に對しては母の愛を持つた友達であり又教師であつたのであります）と結婚しやうとして居ることを打明けた時、私達

はたゞもう賛成したのであります、而してそれがために彼の晩年が真心を以てやさしくかしづかるに違ひないと喜びに堪えませんでした。彼の不斷の活動が彼に尚元氣のあることを證して居りましたので彼の第二の結婚は少しも不思議には思はれませんでした。彼の年齢を知らない人は誰も彼が六十八才であるとは信じませんでした。彼に於て著しい智識の若々しさ及び清新さが誰にも彼の本當の年齢を思はせんでした。それ程の高齢になつても不自由なところはまだ少しもなかつたのであります。人類のために生き、普遍的の人間の仕事を成し遂げやうとする人々は彼等の永遠の生活を地上に於て始めるのであります。

フレーベルは家族生活——家庭といふことを非常に考へて居りました——彼は彼の教育によつて家庭をして生意あらしめ、高上せしめたいと望んで居るのであります。彼が時折彼の深く敬愛する第一の妻に關して私に書き送つた通信及び彼がよ

く私に抜讀みして聞かさせてくれた彼女の書翰とは彼が如何に自身の生活に於て彼の有する結婚の最高理想を實現せしめやうと努力したかを示して居るのであります。

顧問 生先郎三平島高

# モビコ

日 繪 畫 の 一 本

本誌の特徴

- 最もまじめなこと
- 最も教育的なこと
- 最も平易なこと
- 繪の美しいこと
- 記事の面白いこと

本誌は最も着實にして教育的幾多畫雜誌中獨自の地歩を占む。記事は全部片假名にて極めて平易。八九歳以下の子供の絶好伴侶なり。

東京市小石川区林町五十七

所行

定價一冊拾五厘  
郵稅五厘  
六冊郵稅共  
十二冊郵稅共  
壹圓拾錢  
總て前金の  
五拾八錢

社モード電振  
番東町京六二  
番番八三一九七

# 一本の年幼本

□倉橋惣三先生監修

本誌は、三歳から拾歳までの子供の爲め美しい繪と、面白い嘶とを、教育的に組み合せた他に比類なき繪雑誌です。

本誌は、玩具とお嘶しとの興味及び教育的價値を兼ねあはせたるもの、子供には何よりも喜ばれ、何よりもよき友達となります。

定 價

壹冊拾錢 □半年郵稅共六拾參錢  
郵稅壹錢 □壹年同 壹圓貳拾錢

婦人畫報  
少女畫報  
日本幼年

發行所

東京京橋鍛冶橋外  
振替 東京四九〇〇

東京社

## フレーベル會規則（抄）

## 會告

第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハフレーベル會ト稱シ東京ニ置ク

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノトフ

第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ駿出スベシ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ

第六條 本會ノ目的ヲ達セんガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ

一、總會、毎年十月之ヲ開キ保育ニ關スル演説、談話、保育參考品、幼兒成績物展覽、會務ノ報告等ヲナス

一、常會、毎年二月、六月、ノ第二土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演説、談話、協議、實驗等ヲナス

尙毎年四月廿一日特ニフレーベル紀念ノ爲メ會ヲ開ク

一、組合會、會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスルモノヲ以テ組織ス  
但シ別ニ組合規約ヲ定メテ會長ノ承諾ヲ經ルモノトス

一、雜誌發行、毎月一回雜誌ヲ刊行シテ之ヲ會員ニ配布ス

一、前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件

き願候

會長

中川謙二郎

フレーベル會

○本會事務所先般より東京女子高等師範學校附屬幼稚園内へ移轉致候處尙御承知漏も有之候様につき

重ねて申上候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願候

○萬一本誌不着等のこと有之候折は直に御一報煩し

度候

○會費御未納は會計整理上甚だ困却致候に付確實に

御納付下され度向後萬一御不納久しうに亘り候場

合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左様御含み置

菊判和装全一冊紙數二百五十餘頁  
定價金壹圓貳拾錢 送 刊 八 錢

松田茂先生著  
学校家庭幼稚園  
實用圖畫指針  
大取次

教育圖畫に造詣最も深き著者が日常の實驗を基礎とせる最近の著にして、内容圖畫は人物四十五種を始め、獸類、鳥類、虫類、魚類、花奔、草木、果實、野菜、交通機關、家屋其他の營造物、器具、玩具、天文、地理、風景等三百八十六種を網羅し、之を一年十二箇月に配當し、百二十の畫題中に收め、筆順を圖解し、参考圖と應用例とを掲げたるもの。圖形平易簡明、兒童の趣味と實用とに適應せんことを力めたれば、家庭、保姆、教師、兒童の一日も手放す能はざる無二の珍書なり。四月より起り、翌年二月に終る。就て學ばんもの此の時期を逸する勿れ。

東京市麹町區三番町六番地

大取次 フレーベル館

振替口座一九六四〇番  
電話番町二二九〇九番